

ザリガニの日本史年表

年代	ザリガニ史	おもな出来事
1692年	オクリカンキリが薬用とされる。シャコと混同される(『本朝食鑑』)	
1717年頃		アイヌとの交易が盛んになる
1750年	泌尿器系疾病等に用いられ、オランダからの情報が入り始める(『紅毛訳周答』)	
1774年	蝦夷地の産物としてオクリカンキリが紹介される(『蝦夷風土記』)	
1778年		ロシアの南下が活発化
1785年		幕府の蝦夷地調査
1790年	幕府の調査団による正確な情報が江戸に入り始める(『蝦夷草紙』)	
1808年	民間人による蝦夷地のオクリカンキリの情報が得られる(井上貫流左衛門の私文書)	
1811年	幕府の医者によるオクリカンキリの知見が紹介される(『千蟲譜』)	
1826年		シーボルトが江戸に行く
1831年	江戸庶民の情報としてオクリカンキリが紹介される(『魚鑑』)	
1848年	現地在住の民間人からオクリカンキリ情報が紹介される(『松前方言考』)	
1853年		ペリー来航
1857年	公文書によりニホンザリガニの採集が強化され、単価が設定される(『御用留』)	
1860年頃	民間人による情報が数多く得られる(松浦武四郎の各種史料)	
1867年		大政奉還
1879年(明治12)	ベルリン博物館にニホンザリガニが出展される(『御用留』)	
1906年(明治39)	アルバトロス号が函館市場の標本を米国に持ち帰る	
1915年(大正 4)	大正天皇の御大典でニホンザリガニ料理が供全膳される	
1927年(昭和 2)	アメリカザリガニが輸入される	
1930年(昭和 5)	ウチダザリガニが北海道の摩周湖に放流される	
1934年(昭和 9)	秋田県大館市相染沢のニホンザリガニが国の天然記念物に指定される	
1945年(昭和20)		太平洋戦争終了
1972年(昭和47)	昭和天皇がメキシコ産ザリガニを受け取る	
2006年(平成18)	ウチダザリガニは特定外来生物、アメリカザリガニは要注意外来生物に指定される	